

(A) 研究成果発表 成果報告書

「48th Annual Meeting of the Ecological Society of Germany, Austria and Switzerland」
でのポスター発表

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程1年 湯浅 拓輝

1. 活動日程・会場

日程：2018年9月10日～2018年9月13日

会場：Universitätszentrum (UZA) @Vienna

2. 活動の目的

本活動の目的は、ウィーンで開催される国際会議「48th Annual Meeting of the Ecological Society of Germany, Austria and Switzerland」において、2016～2017年まで行った研究の成果を発表することである。「Estimating nesting plant preference of harvest mouse in Yato environment using UAV at Kanagawa Prefecture, Japan」というテーマでポスター発表を行い、小型ドローンを活用し野生生物（本研究の対象種はカヤネズミ）のミクروسケールでの保全やモニタリングに寄与することを目指した本研究の成果を発信することを目的とした。

3. 活動の成果

本大会が行われたドイツ語圏では日本よりもドローンの使用に関する規制が厳しいようで、筆者の研究以外にも2～3つドローンを用いた研究は見受けられたが、そこに興味を示す人も多かった。本研究ではドローンで草地を撮影し、合成した航空写真から判読し植生図を作成するという方法を用いたが、その作成方法についての質問もあった。その他統計解析の結果に関する質問があった。今回受けた質問を通してポスターへの記述が不足していた点、定義づけが不十分だった点などを把握することができたので、今後論文化する際の参考にしたい。また、研究のテーマや視点について興味深いという意見をもらったので、それは自信につながった。

他の参加者の発表も非常に興味深かった。今回聴いた発表の中では1つの種を対象とした研究が少なく群集レベルでの調査が多かった。エコシステムや生態系サービスの機能について評価するような研究も多く見受けられた。また筆者が対象としている草地環境でも日本とヨーロッパでは様相が異なり、本大会ではアルプスの高山性の草原を対象にしている例が多かった。普段勉強していることとは異なる内容、日本とは違った環境の話の聴き、

理解が難しい点も多かったが、手法や研究の構成といった点で大変参考になった。



4. 今後の展望

本活動で発表した内容は生態学分野の英文誌に投稿する予定である。今回の国際会議で得られた意見や質問を参考にしながら論文化を進めていきたいと考えている。

また、研究に対する質問への受け答えや他の参加者の発表を聴く中で自身の英語力の未熟さを痛感したところである。今後海外の研究者とも議論が活発にできるよう、英語力の向上を目指す。

5. 謝辞

本学会参加にあたり、資金面で援助いただいた湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。